

令和8年5月1日

令和8年度 府中市立武蔵台小学校 学校経営計画

府中市立武蔵台小学校

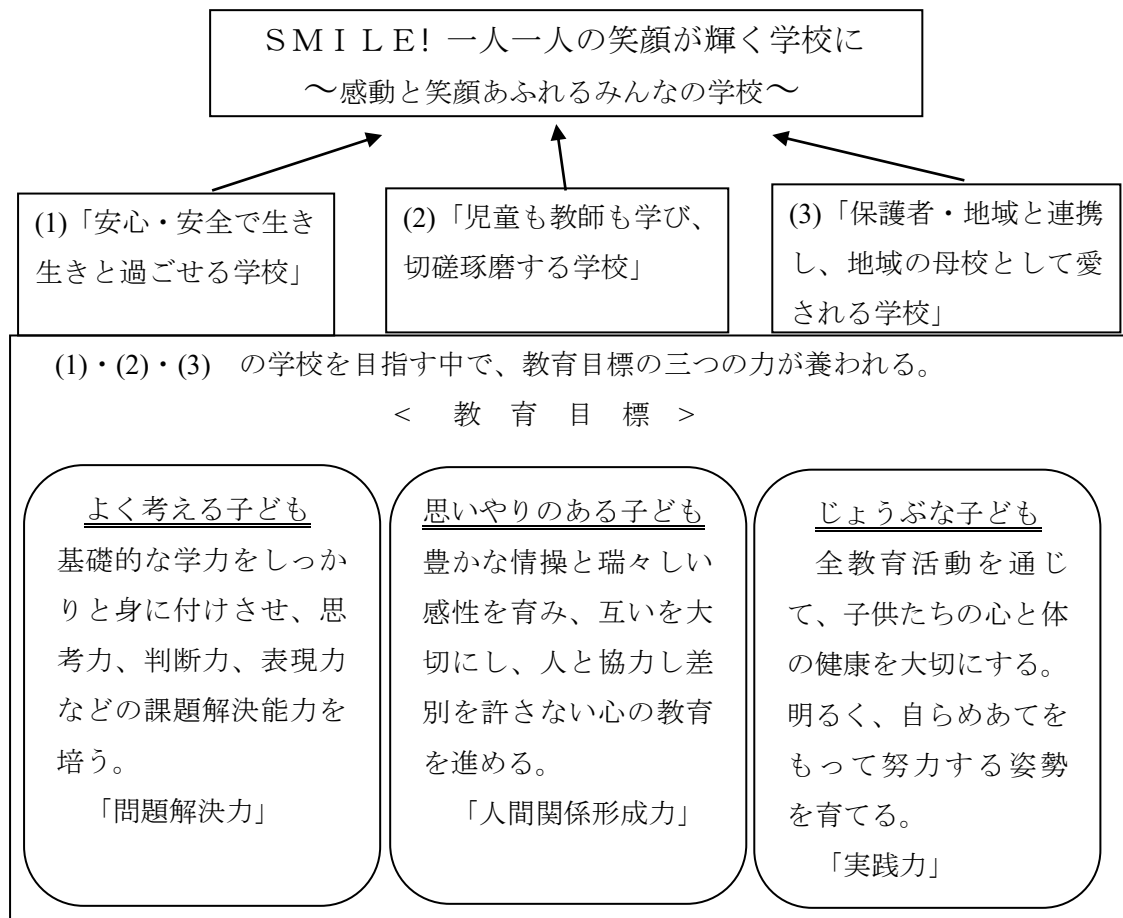
校長 山中 慈子

1. 目指す学校

SMILE! 一人一人の笑顔が輝く学校に
～感動と笑顔あふれるみんなの学校～

学校は子どものためにある。自ら夢をもち、心豊かにたくましく生きていく子どもを育てたい。そのために、一人一人に確かな学力を育み、自分の目標に向かって粘り強く取り組む態度を育て、互いのよさを認めて豊かな人間関係を築き、心が動く感動と笑顔あふれる学校づくりを行う。常に教職員は、児童を認め、褒め、励まし、自らも笑顔を忘れずに接していく。

このような考えに基づき、府中市立武蔵台小学校の子どもたちの健やかな成長のために、経営理念を「SMILE! 一人一人の笑顔が輝く学校に～感動と笑顔あふれるみんなの学校」とし、児童・保護者・教職員・地域にとって、温かく、誇りをもてる母校となるべく、教育目標の具現化を図り、学校経営を行う。



※「チーム武小」の一員として、全教職員で全校児童を育てる※

2. 中期的目標と方策

中期的目標は、全段で述べた以下の3点である。

- (1) 「安心・安全で生き生きと過ごせる学校」
- (2) 「児童も教師も学び、切磋琢磨する学校」
- (3) 「保護者・地域と連携し、地域の母校として愛される学校」

<方策>

注：ア～ケは「3. 今年度の取組目標と方策（1）教育活動の目標と方策」で該当する箇所を示したものである。

(1) 「安心・安全で生き生きと過ごせる学校」づくり

- ① 道徳教育の充実及び全教育活動を通して、思いやりのある、豊かな心を培う
→ア
- ② 健康への意識を高める。
→イ
- ③ 社会生活上のルールを理解し、実践するとともに安全教育の充実を図る。→ウ
- ④ 規範意識を醸成するとともに、暴力やいじめは許されない行為であるという基本意識を徹底し、明るく心豊かな学校生活を実現する。→ウ

(2) 「児童も教師も学び、切磋琢磨する学校」づくり

- ① 基礎・基本の確実な習得・定着を図る。→エ
- ② 課題を解決する力の向上を図る。→オ
- ③ コミュニケーション能力を育成し、社会の変化への対応力を高める。
→カ
- ④ 主体的・対話的で深い学びを充実させるための授業改善を図る。→カ

(3) 「保護者・地域と連携し、地域の母校として愛される学校」づくり

- ① 家庭教育の充実を図る。→キ
- ② 学校・家庭・地域との協働による教育を一層推進する。→ク
- ③ 地域との連携を推進する。→ケ

3. 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア○学校の教育活動全体を通して命の大切さや思いやりの心を育てる。「特別の教科道徳」の内容を踏まえ、「考える道徳」「議論する道徳」の充実を図る。

○特別支援教育の充実を図る。個のニーズに応じた支援体制を築き、関係諸機関との連携のもとに行う。教員研修をより充実させ、いじめ、不登校問題に組織的に対応していく。

○「人権教育プログラム」等を積極的に活用し、自分も他の人も大切にすることを

育て、あらゆる立場の人を差別しない心を育てる。

○校歌の手話を学んだり、パラリンピックやオリンピック、デフリンピックについて学んだり、武蔵台学園と交流したりすることを通して多様性に関する理解を育む。

イ○性教育や薬物乱用教室、米や野菜などの栽培活動や給食等の食育を通して生活にかかわる知識を深める。

○外部講師(アスリート等)を活用し、スポーツへの関心を高め、すすんで運動に親しむ機会を設ける。

ウ○学校だよりや朝会や生活のめあてを活用し、あいさつなどの学校での規則正しい生活習慣の確立を図る。

○セーフティ教室や情報モラル教育、防災教育を通し、自他共に安全に過ごす意識を高め、実践に結び付くようにする。

○「こころの天気予報」や「ふれあい月間」での実践、いじめに関する授業での取組を通して、いじめを把握し、いじめを許さない学校づくりを行う。

エ○学力調査及び算数少人数指導やクロームブックの活用、繰り返し学習、校内・校外の漢字検定や算数検定などを通して、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

○外国語教育の充実、ICT や教材の工夫、個の特性を踏まえたユニバーサルデザイン等を通して、学習意欲の向上を図る。

○デジタル教材を活用した授業づくり、環境づくりを進め、教員の授業力向上を図る。

○学校予算を効果的に活用し、外部人材を登用した授業や支援員の充実を図る。

オ○全教育活動を通じて言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を行い、課題解決力の向上を図る。

○読書環境を更に整備し、学校経営支援員を活用した意図的・計画的な取組を推進し、読書に親しむ活動の充実を図る。

○教員が指導教諭による授業等、都や市の研修・研究協力校等制度を積極的に活用できるよう年間計画に組み、促していく。

○第七中学校や同校学区の小学校と情報交換し、児童・生徒や教員の交流を行うことで育てる子供像を共有化し、小中連携、一貫教育の一層の推進と充実を図る。

○教員の職層に応じた役割をより明確にし、OJT の更なる充実を図る。

カ○教員の校内研究の主題を「対話を促す環境づくりを通した、思いやりのある話し手、たくましい聞き手の育成」とし、国語科を中心としながら、様々な教育活動で「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の育成を図り、教員が主体的・対話的で深い学びを充実させるための授業改善を推進していく。

そして、日常の場面で学んだことが活用できるよう研究を進めていく。

○校外学習や宿泊行事、特別活動及び環境教育を通して、社会規範や創意工夫する

実践力を身につける。その中で、問題を自分なりに解決していこうとする態度・能力を育成するとともに、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けていく。(未来へつなぐ府中 2020 レガシー)

○校務分掌や教育計画を見直し、教育委員会と連携してよりよい体制を構築するとともに、学校経営支援員や副校長等校務改善支援員を計画的効果的に活用して学校の組織力を更に高め、働き方を改革していく。

キ○ICT を活用した家庭学習の提示や学級・学年での取組を通して、家庭教育の充実を図る。

○学校だよりや保護者会、学校公開、講座等を通して、家庭教育に関する情報等を発信する。

ク○保護者会や行事、学校公開を通して、保護者との繋がりを深める。「武蔵台小学校有志の会」と連携し、有志の会の活動を通して家庭との連携を深める。

○子育て支援施設や事業を随時紹介するなど、外部機関との連携を図る。

ケ○学校周辺の自然を活用した環境教育や稲作、地域の歴史や活動を通しての地域の方々との交流、武蔵台学園との交流等の教育資源を生かし、地域学習の活性化を図り、「ふるさと」府中への愛着を深める。

○スクールコミュニティ協議会や令和9年度の60周年に向けた準備委員会を各学期に1回開催し、地域コーディネーターや地域人材の活用を推進し、地域との連携して、地域の中のより良い学校としての在り方を構築していく。

○「府中のまち クリエーターノート」の実践校として地域人材を生かした学習に取り組む。

(2) 重点目標と方策

○教育目標「よく考える子ども」を重点目標とする。

教員の校内研究の主題を「対話を促す環境づくりを通した、思いやりのある話し手、たくましい聞き手の育成」とし、国語科を中心としながら、あらゆる教育活動で「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の育成を図り、教員が主体的・対話的で深い学びを充実させるための授業改善を推進していく。その中で児童が学習したことが日常の場面で生かせるよう、研究を深めていく。

月1回45分～2時間半程度の研究の時間に加え、週1回15分程度の研究・研修の時間を設けることで、児童の実態にきめ細かく沿った内容としていく。

○校内研究のもう一つの柱として、特別支援的手法を教職員で共有し、児童理解をさらに深め、より個人に適した学習の在り方を模索していく。ICT、デジタル教材を効果的に活用した授業づくり、ユニバーサルデザインを意識した環境づくりを校内研究や学期ごとの観察授業を中心として更に進め、教員の授業力向上を図る。

○一人一人の児童に今必要なことは何か、個のニーズを把握し、特別支援の必要度を確認し、校内委員会等で課題解決に向けた方策を検討していく。いじめ、不登校問題等に組織的に対応していく。

○その他重点を置くことは

- ・年間を通して授業や体育的行事、集会活動を計画的に行うことで運動する習慣を身に付けるようにする。校庭にある運動するための仕掛けを有効に活用する。
- ・第七中学校や同校学区の小学校と児童会や生徒会の活動等の情報交換をしながら、育てる子供像を共有化し、小中連携、一貫教育の一層の推進と充実を図る。管理職やコーディネーターの連絡を密にし、学校だよりやホームページで取組を発信していく。

である。